

年度末需要も少なく、苦戦が続く

3月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

年度末の繁忙感も乏しく、苦戦を強いられた業界が多い。また、人手不足は依然として続き、人材確保に苦慮している。一方、織物や商店街で開催したイベントは盛況となるなど、明るい兆しも一部に見られ今後に期待している。

製造業	食料品		パンはスーパー等が価格を下げており、強気の価格設定ができない状況である。菓子はお節句用が減少、観光地の土産用の菓子も低迷している。製麺は生・乾麺ともに状況は変わらず。酒造は普通酒の苦戦が依然続いている。
	繊維・同製品		桐生織物はテキスタイル展示会や和装織物の求評会も好評であり、今後に期待している。伊勢崎織物は先月に引き続き「群馬繊維製品宣伝販売会」を開催し、所沢市においても伊勢崎緋や銘仙への関心の高さが窺える。
	窯業・土石製品		生コンは前橋・高崎地区は前年並みだが、他地区が苦戦している。コンクリートブロックは年度末需要がなく低調に推移している。砕石は販売価格は上昇傾向だが、収益状況は地域差が見られ、特に西毛・沼田地域の悪化が顕著である。
	機械・金属		富士重工関連は新規受注品価格は厳しく、収益状況・資金繰りは悪化を示す。プラスチック金型は引き続き稼働状況は良好だが、月末より低下している。鍍金は生産調整も一段落し、自動車・電機・建設等で安定化が見られる。
	その他の製造業		木材は原材料高と製品安が依然として続く。紙加工品は全体的に薄商いの状況で、企業間格差が散見している。印刷は年度末需要が年々細る中、多品種少量受注が増加し、コスト高への対応を苦慮している。
非製造業	卸売業		高崎卸のビッグキューブでは就職活動解禁とともに合同企業説明会が目白押し。前橋卸は賃上げ・人材確保が今後の課題である。太田卸は機械器具が売上・収益ともに好転傾向にある。農産物卸は例年並みに推移している。水産物卸は売上高が増加している。
	小売業		生花小売は卒業・異動シーズンのため繁忙期だが、花の高値相場に苦しみ収益悪化が散見している。沼田の商店街は来街者が増加傾向で、「真田丸展」に併せて開催した「真田の里ふるさと市」が盛況、今後の連携を模索している。
	サービス業		四万温泉は新卒採用できた旅館もあるが、全体的に人材確保に苦戦している。草津温泉は卒業旅行、外国人客が増加するもスキー客の減少が響き宿泊客は若干減少している。不動産取引は来年の消費税増税に伴う駆け込み需要対策が始まる。
	建設業		建設工事は繁忙期にかかわらず今年は手持ち工事が極端に少なく、今後も懸念している。電気工事は依然として作業員不足が続く。塗装工事は仕事量の落ち着きで単価競争が始まり、施工単価の適正化が失なわれつつある。
	運輸業		食料品・飲料・自動車関連・OA機器等の取り扱いが目立つが、年度末の繁忙感はない。また、安全に対する規制強化を不安視する中、運転手不足の対応に苦慮している。小型輸送は卒業シーズンで貸衣装関係が増加している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 108.4(前月比▲7.8%)「県統計課・2月」
- 大型小売店販売額 184億円(前年同月比%)「経済産業省・2月」
- 住宅着工戸数 1,071戸(前年同月比+24.5%)「県建築住宅課・2月」
- 消費者物価指数(全国) 103.2(前年同月比%)「総務省統計局・2月」
- 求人倍率(季節調整値) 新規1.91倍:有効1.35倍「群馬労働局・2月」
- (鉱工業生産指数・消費者物価指数は22年=100とした指数)